

# ゲーム中心の学習過程の検討

## —中学1年生 タグラグビーの実践より—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（保健体育）  
氏名（暮石 達彦）

本研究では、今日的な教育課題「主体的・対話的で深い学び」とこれを具現化した「課題解決課題学習」、保健体育科の目標「豊かなスポーツライフの実現」が現状では、十分でない点を問題とした。そこで、球技における実践によって、その問題解決を図ることを目的とした。

本実践では、ゲーム中心の学習過程によるゴール型（タグラグビー）の授業を行った。この状況を、動画による生徒の動きや毎授業の振り返りと単元後の振り返りから分析を行った。一般的に単元の初期の段階から技術・戦術的な課題を要求する実践が多いが、社会的課題の解決無くして、その要求は、困難になることがあるとわかった。また、ゲームの量に比例して戦術的気づきもより多く生まれると考えられる。これらの結果から、ゲーム中心の学習過程によって、体育の目標である「豊かなスポーツライフ」の実現に向かうことができるかと推察される。